

防災と男女共同参画

国では、災害時には平常時の社会課題が一層顕著になって現れるため、平常時からの男女共同参画社会の実現が、防災・復興を円滑に進めていくための基盤になるとしています。

また、避難所生活が中長期にわたると、地域住民が主体となって運営していただくことになります。この時、さまざまな人の意見や**男女双方の視点が必要**となります。

なぜ防災に男女双方の視点が必要？

防災・復興等の意思決定過程の場に参画する女性の割合が低い現状にあります。

このため防災に対する平常時の備え、災害時、復旧・復興の各場面において女性の意見、女性と男性のニーズの違いが反映されにくい傾向にあり、**必要な支援が提供されないおそれがあります。**

これには女性の積極的な参画による、多様な意見が避難所運営に反映されることが大切です。

日本の現状

女性委員が登用されていない
市町村防災会の数
→現状(2020年) 348/1,741
目標(2025年) 0

自治会長に占める女性の割合
→現状(2020年) 6.1%
目標(2025年) 10%

帯広市での取り組み



帯広市では第3次おびひろ男女共同参画プランで防災分野における男女共同参画推進をうたっています。

- 高齢者や障がい者、妊産婦などに配慮した専用スペースの確保
- 地域の防災リーダー育成の研修会開催
- 防災意識の普及・啓発のための出前講座、親子防災講座の開催 など

避難所でのDVや性被害等が報告されています

東日本大震災時は、福島県・宮城県を中心に避難所でのDVや性被害等が27件報告されています。

- ・ひとりではなく複数人で行動する
- ・防犯ブザーを持っておく
- ・周りの人と声を掛け合う など、被害にあわないように気を付けましょう。



何かが起きる前に...

日頃から準備しよう！確認しよう！

地域における男女共同参画の視点からの防災・復興に係る啓発資料

内閣府男女共同参画局では、全国の女性の視点からの防災・復興に係る啓発資料を掲載しています。



おびひろ防災ガイド

ハザードマップのほか、避難所の場所などを紹介しています。

